

女子中・高等科

企画課管理用 教 一 B 一 3

推進主体	女子中・高等科
責任者	社会科主任

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 一 B	社会科アクティブラーニングの充実	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容
<p>女子部社会科では、中等科社会科教育の集大成として、中等科3年生の公民で、自ら調べ、議論し、分析・考察を深めながら、現実の社会と自分の知識を結び付けていく実習的な授業を実施してきた。社会的事象についての本質的な理解を涵養し、社会観や問題意識を育む上で一定の成果があったと考えられる。一方で、実習的な授業でありながら、40名の生徒を1人の教員が担当しているため、個々の生徒への技術的な支援やきめ細やかな指導が不足していた。また、この授業では客観的な評価をすることが難しく、1人の生徒の活動を2人の教員で見ることで評価の精度を上げていくことも目的とし、令和4年度よりT.T.(チームティーチング)を導入する。</p> <p>令和4年度からは高等科における新教育課程が始まり、新科目である「地理総合」「歴史総合」「公共」でもアクティブラーニングが始まる。中等科で身に着けた力を土台に新教科で一層能力を伸長できるよう、T.T.を導入する。社会科では、女子部在学中にあるべき社会とあるべき自分を模索する契機となるような活動を行い、ひいては日本や世界の諸問題に対してリーダーシップをとって問題解決を図ることのできる生徒の育成を目指す。</p> <p>なお、中期計画終了後もT.T.を配置する場合は、人事課とも協議のうえ検討する。</p>

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・中3「公民」へのT.T配置 ・高1「地理総合・歴史総合」へのT.TもしくはT.A配置 ・高2「公共」へのT.T配置

③ ロードマップ							
年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		中3の公民のT.T. 高1の地理総合・歴史総合でのT.TもしくはT.A.					
			高2の公共でのT.T.				

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。							
指標の名称	指標の定義(計算式/説明)						
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	中3の公民の授業で、担当者のほかにもう1名TTで入る。 PC操作の質問や話し合いの進捗状況・アドバイスや生徒の取り組みに対する評価を2人の教員で行う。 高Iに設定される地理総合・歴史総合でも必要な補佐を行う。 翌年度から始まる高2の公共の授業計画を検討する。	中3の公民はTTの導入によってよりきめ細かい指導が可能となった。Excelを用いた表計算・グラフ作成など、中等科生にとっては高度な内容についても、2名の教員で指導することで生徒により大きな達成感を抱かせることができています。高IIの現代史ではTAとして、図書館の資料活用の指導やPC操作のアドバイス、発表資料の作成準備などに有効な助言を与えることで、より高い成果に結びつけています。 TAについては、授業計画のほか時間割や行事の関係で弾力的な運用とならざるをえないため、今後の人員確保が課題である。
令和5年度 (2023年度)	中3の公民は引き続きTTにて実施し、きめ細かい指導とともに多角的な評価を可能とする。 1人1台端末が整備されたことから、生徒がより主体的かつ探究的な学びに取り組むことができるよう、高Iの地理総合・歴史総合および高IIの公共でTAの活用を予定している。	昨年度同様、中3の公民でTTを導入することで、きめ細やかな指導をすることができただけでなく、昨年度よりもPCでの生徒の作業内容を増やし、より正確な社会現象に対する分析や考察を可能にした。さらに、複数の目で生徒の取り組みを評価でき、評価の客観化にもつながった。PC作業の遅い生徒に対しては、放課後にTAが生徒に対して対応し、生徒のサポートをすることができた。また、世界史探究でも生徒の提出物の管理等で教員の負担を軽減した。
令和6年度 (2024年度)	中3の公民は引き続きTTにて実施し、きめ細かい指導とともに多角的な評価を目指す。今後も挑戦的な取り組みを実施し、高等科での学びとの関連性を高めていく。次年度は高等科新カリキュラム完成の年であり、生徒がより主体的かつ探究的な学びに取り組むことができるよう、高等科でTAの活用を予定している。さらに、女子部社会科でアクティブラーニングを活性化させるために、TAとともに資料や情報源の整理を行い、生徒に提供できるようなデータベースの作成を検討している。	昨年度同様、中3の公民でTTを導入し、昨年度と同じ非常勤講師が連続して担当することで、反省を踏まえたよりよい指導に改善することができた。生徒の社会現象に対する分析や考察に時間をかけて探究的な取り組みとなった。ALの評価の客観性を担保できた。また、PC作業の遅い生徒に対しては、放課後にTAが生徒に対して対応した。さらに、世界史探究・政治経済・中等科1年の地理でも生徒の提出物の管理等で教員の負担が軽減され、高等科の新カリキュラムが目指す探究的な学習を支えた。
令和7年度 (2025年度)	中3の公民は引き続きTTにて実施し、きめ細かい指導とともに多角的な評価につなげていく。高等科新カリキュラム2年目の年であり、社会科内の教科間の関連を意識し、生徒の主体的な学びを促し、シティズンシップを育成していくことを目標とする。次年度は積極的に高等科のTAも検討していく。TAとともに資料や情報源の整理を行い、生徒に提供できるようなデータベースの作成も引き続き検討している。	